

企業名：大同メタル工業

レポート名：大同メタル工業統合報告書 2025

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

理解できる。ブランドパーパスである「あらゆる動きを支えて豊かな暮らしに貢献する」をもとに、同社が目指す方向性とブランドミッションを企業理念として設定しており、世界唯一の総合すべり軸受メーカーとして世界No.1の企業であり続けるための手段が複数の観点から示されている。企業としてのビジョンというマクロ的な視点だけでなく、一つ筆頭の事業分野や企業構成要素に分けて詳細に記載されていたため、目指す姿だけでなく、そのためにそれぞれ何をすべきかが具体的に理解できた。

特に中期経営計画「Bridge to Daido 2030」では、事業体制の再構築を進め、自動車エンジン用軸受以外の事業を強化する方針が示されている、すべての事業を一律に成長させるのではなく、時代の動向を見据えた事業変革を目指している点に説得力があった。実際にパワートレイン事業の売上構成比は現在 53%であるが、他事業の成長により 2030 年には 4 割強に減少していく見通しを立てており、事業ポートフォリオの変革に向けた具体的な方向性が示されている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

理解できる。統合報告書全体を通じて、品質重視ということが繰り返し出てきており、品質にこだわった姿勢が同社の根幹にあることが伝わる。また世界唯一の総合すべり軸受メーカーであるという市場における独自のポジションが最大の競争優位性である。こうした企業としての特異性だけでなく、すべり軸受そのものの社会的価値を丁寧に説明することで、製造業としての存在意義も示されていた。特に技術・製造ノウハウ、信頼と安心の品質、グローバルな事業基盤という三つの強みが繰り返し示されており、純粋な製造業としての競争力を感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

理解できる。現在の業績を示しながら、今後の展望も丁寧に記載されており、各事業セグメントがどのように成長していくかが具体的に示されていた。実際に、原材料・エネルギー

価格の高騰、人件費や物流コスト増に伴う物価上昇など厳しい事業環境の中でも、2024 年度は売り上げが前年同期比 5.9%増、営業利益が 16.5%増となっている。自動車用エンジン軸受では北米の需要が堅調に推移し、船舶分野では中国への拡販が進み、利益率の高い大型船舶向けの増収も実現した。また、長らく赤字が続いていたアルミダイカスト事業が品質改善の強化により、2024 年度に黒字化を達成したことも、持続性の観点から評価できる。再生可能エネルギー分野では、風力発電機用軸受の市場開拓に取り組んでおり、従来の転がり軸受と比較してメンテナンスの時間やコスト削減が実現できるというすべり軸受の強みを活かした展開が期待される。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

おおむねそう感じる。階層別及び目的別の研修が整備されており、個々のステージに応じて能力を高められる環境が整っている。社内教育機関である大同メタルカレッジの修了者は延べ 2,447 名に達しており、研修修了が昇格要件にも組み込まれているため、学びが処遇に直結する仕組みになっている点は特に良いと思う。人材戦略の柱として「主体性・挑戦」「変化に強い組織」「それを支える仕組み」の 3 つが掲げられており、従業員一人一人が自ら学びキャリアパスを切り開く環境、多様な価値観や雇用形態を受け入れる組織風土、そして成果に応じた報酬やワークライフバランスを支える制度が採用、人材育成、人材配置、人事制度、福利厚生 of それぞれに分けて具体的に示されていた。

しいて言えば、研修の内容や目指す人材像についての説明は充実している一方で、その研修が実務にどのように生かされているかという成果の可視化がより 10 ずつすると、人的資本への投資効果がステークホルダーにより明確に伝わると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

見やすい図表が豊富に使われており、詳細な文章を読まなくても概要が把握できる構成になっていた。事業ごとに色が統一されているため、どの事業についての記述かが一目でわかるようになっていた。アバウトな記述が少なく、個々の事業に対して具体的な数値目標と戦略が示されており、全体として完成度の高い報告書だと感じた。

しいて改善余地を挙げるとすれば、風力発電やデータセンター向け需要など新規参入分野において、外部市場のデータの引用が少なく、自社の見通しが中心になっている点である。特に風力発電機器用軸受への参入は成長戦略の一つとして掲げられているが、風力発電に

は騒音被害、自然環境への影響、天候依存性など普及を妨げる現実的な課題も多く存在する。統合報告書内では、市場成長を前提とした記述が中心であり、こうしたリスク要因や業界全体の市場規模を示す外部データの引用はほとんど見られない。EV 化の予測において HIS Markit のデータを活用しているように、風力発電市場についても外部の客観的データを示すことで、この事業への参入判断の妥当性がより説得力を持って読み手に伝わると感じた。